

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075300139
法人名	社会福祉法人 久住会
事業所名	グループホーム 敬寿
所在地	福岡県鞍手郡小竹町大字勝野1751番地 (電話) 09496-2-7688

評価機関名	福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	H21年 4月 20日
評価確定日	21年 5月 28日

【情報提供票より】 (平成21年 3月 25日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 14年 10月 1日
ユニット数	1 ユニット
利用定員数計	9 人
職員数	8 人
常勤	8人, 非常勤 人, 常勤換算 4.3人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	2階建ての ~ 1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	400 円
	夕食	350 円	おやつ	333 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (平成21年 3月 25日現在)

利用者人数	9 名	男性	名	女性	9 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 87.5 歳	最低	79 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐藤医院・丸野クリニック・加藤整形クリニック・加藤歯科
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

閑静な丘陵地に位置する事業所で、同法人の軽費老人ホームに併設されている。周囲は緑豊かな木々に囲まれ美しい自然のなかにある。ホームは2階建てケアハウスの1階にあり、玄関周りは季節の花々で飾られ和やかな雰囲気である。入居者主体のサービス提供や地域交流を重視した支援を、管理者や職員が一同となって心がけ実践している。広報誌を家族と共同で作成し、カンファレンスや家族会に参加しやすい工夫をする等、家族と共によりよい事業所を作り上げるといった姿勢が随所に伺える。地域との交流も極めて自然体で活発に行われており、近隣の住民や商店と顔なじみで親密な関係が構築されている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での課題について全職員で話し合い、改善計画シートを作成している。災害時の必要物品の備蓄や月1回の夜間想定避難訓練の実施など具体的に取り組み改善している。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で意見交換を行い取り組んでいる。前回の外部評価で十分にできていると評価された点においても、より何かできることはないかという視点で積極的な取り組みをしている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は定期的開催している。メンバーは利用者・民生委員・行政職員・家族会代表者で外部評価や介護内容を説明し意見を聞いている。事業所への理解のため地域へ事業所便りの発行や家族のカンファレンスの参加など意見を聴取し、日頃のケアのサービス向上に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
	家族と共同で作成した事業所便りを発行し、随時連絡を取り合っている。家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけを行っている。定期的開催される全員参加の家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会・自治会に加入し近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校と交流がある。地域の夏祭り・運動会に参加したり、事業所の法人が所有するゲートボールのコートを地域に提供している。また家族とともに作成した事業所便りを地域に配布する取り組みも行っている。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「長寿に敬いの心で接する」という事業所独自の理念の中に「地域住民との交流」という地域密着型の視点がある。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の朝礼時に理念を唱和し、ミーティング時にも議題に挙げるなど、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会・自治会に加入し近隣の保育園・幼稚園・小学校・中学校と交流がある。地域の夏祭り・運動会に参加したり、事業所の法人が所有するゲートボールのコートを地域に提供している。また家族とともに作成した事業所便りを地域に配布する取り組みも行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員で意見交換を行い取り組んでいる。また前回評価で見出された課題について全職員で話し合い、改善計画シートを作成している。家族の行事への参加や、夜間緊急時のオンコール体制、1ヶ月毎の夜間想定避難訓練の実践計画など具体的な改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的開催している。メンバーは利用者・民生委員・町役場職員・家族会代表者が参加し、意見や要望を言えるような関係作りに努めている。意見や要望は日頃のケアに結びつける取り組みを行いサービス向上に活かしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は行政の「高齢者対策委員」の役を担っており行政との連携を密に取っている。またサービスに関する課題の話し合いを行い、課題解決に向けた協働を行っている。		
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	制度について外部から講師を招き内部研修で学ぶ機会を設け、共有化が図られている。テキスト・研修記録・報告書がある。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族とともに作成した事業所便りを毎月発行し、利用者の暮らしぶり・行事の様子を知らせている。来訪時は必ず状況を報告し、緊急時等は電話等で迅速な対応を行っている。利用者ごとにアルバムを作成している。金銭出納帳は家族の署名・捺印があり、毎月コピーを郵送している。		
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時は意見や要望を気軽に表出できるような雰囲気作りや声かけを行っている。毎月開催される家族会では活発な意見交換が行われ、家族の意見や要望を表明しやすい仕組みを作り上げている。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は必要最小限に抑えるよう努めている。離職や移動の場合は十分な引き継ぎ期間を設けたり、家族会からの提案で、送別会を企画し、自然な形でお別れができるような工夫をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
5. 人材の育成と支援					
11	19	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用にあたっては、性別・年齢等に関係なく資格・熱意・適性を重視している。また職員の能力発揮や自己実現にむけて個別に面談を行い意見を十分に聞いている。</p>		
12	20	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>内部研修を行い、利用者・家族・職員全ての人権の尊重を重視している。テキスト・研修記録・報告書がある。</p>		
13	21	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>経験に応じた研修に参加できるように管理者が配慮している。内部研修は必ず参加できるように2回開催し日常的に学ぶことを進めている。</p>		
14	22	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム推進会議など複数のネットワークに加入している。他の事業所と相互に訪問・意見交換などを行い、サービスの質の向上に努めている。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>利用開始前には、見学や職員による自宅訪問等を行っている。サービス開始時は利用者の意向やペースを尊重し、集中的に見守りや観察を行っている。他の利用者とお茶を飲みながら過ごしてもらうなど、徐々に事業所に馴染めるような工夫をしている。</p>		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理や菜園作り等を共に行い、職員が知らない知識や技を利用者から教えてもらう場面がある。職員と利用者が共に過ごし、学び、支えあう関係を築いている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は日々の関わりの中で利用者の言葉や表情、行動から本人の希望や意向をくみ取るようにしている。意思疎通が困難な場合、職員の勉強会や家族から本人の思いや意向など情報を得て、あらゆる角度から判断し本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人らしく暮らすために、本人の意見・家族の訪問時・3ヶ月毎家族参加のカンファレンス時など要望や意見を聴くなどきめ細い情報収集をしている。職員のアイディア・気づき・意見など参考にケアマネジャーが作成している。介護計画には家族の意見が記載されており押印もある。		
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直している。状態変化時はその都度、職員・家族間の話し合いが行われ、現状に応じた新たな介護計画が作成されている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の入院時は本人・家族及び医療機関と連携し、早期退院に向けて取り組んでいる。通院の付き添いや送迎など必要に応じて柔軟に対応している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的に本人・家族の希望するかかりつけ医への支援を行っている。受診や付き添いなど家族の希望には柔軟に対応している。家族には受診後の状態報告を行っている。		
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者や家族の意向を大切にしながら、職員間で出来ること、出来ないことを十分に検討し、職員、家族、かかりつけ医と話し合いながら方針を共有し対応している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	運営理念の「長寿を敬い」のごとく利用者の尊厳、ほこりを大切に、本人を傷つけないように言葉かけや対応に配慮している。「プライバシーの確保」議題とした勉強会の記録もある。マニュアルによる記録や個人情報の確保を周知徹底している。		
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日のおおまかなスケジュールはあるが、利用者の一人ひとりのその日にしたいことを把握し、利用者のペースを大切に、希望にそって支援している。起床・就寝時間、食事摂取時間、入浴など、その日その時の本人の気持ちを尊重し支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員は食事の準備や後片付けを一緒に行っている。又同じ食卓で共に食事しなら、さりげない言葉かけや見守りをし、楽しみながら食卓を囲んでいる。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望で毎日、何時でも入浴可能である。入浴拒否の利用者には気分に応じて言葉かけしながら入浴や足浴支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴や趣味をいかしたゲートボール、掃除、料理、洗濯物たたみ、野菜作りなど生活習慣を維持し、楽しみの工夫がされており利用者に退屈した時間はない充実した日々を過ごせるよう支援している。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	森林浴が楽しめる環境にあり、戸外散歩は日常的に行われている。事業所のバスで全員参加の朝食やドライブを毎月実施している。希望に応じての買い物など、戸外に出ることは積極的にされており利用者の楽しみとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中施錠はしていない。職員は利用者の外出傾向を把握しており、併設事業所と連携をとり見守りを行っている。また、地域包括支援センター主催の研修に参加し、鍵をかけないケアに積極的に取り組んでいる。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は年2回、消防署と地域住民の参加で行っている。また昨年は火災害対策だけでなく自然災害も対象として実施している。水や非常食のカンパン、毛布、簡易トイレなど備蓄している。災害対策用の備蓄として現在3ヶ所の併設事業所を勧誘し、100名対象の倉庫を改築中である。今年度は夜間の災害を想定した避難訓練の計画中である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
外部	自己				
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設事業所の栄養士が利用者の嗜好や状態に配慮し献立を作り栄養管理している。食事は季節の物を使ってバランスよく量も味もよい。嚥下の悪い利用者にはキザミ食で対応している。食事摂取量、水分摂取量も全利用者分の記録がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は床暖房が設置されている。和室の床の間には利用者が生けた花が飾られ、全体的に落ち着いた雰囲気である。不快な音や光はなく、採光も適度で居心地よく過ごせるよう配慮されている。		
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には洗面所やトイレが設置され、一間幅のクローゼットも備え付けてり、清潔に保たれている。馴染みのタンス、テレビ、家族の写真、生け花、観葉植物などに囲まれており、居心地よく過ごせる工夫がされている。		

※ は、重点項目。